



社長が語る

「ものづくりへの想い」

お茶作りを通して、いろんな方と出会えるのがこの仕事の魅力です。お茶は日本の文化なので半永久的に続いてほしいと願います。そのためにも若い世代にもっと親しんでもらいたい。今後SNS広報やキャッシュレスなども導入していきたいと考えています。

代表取締役

高倉 慶紀 氏
たくら よしのり

袋の大きさ、グラム数などのデータをコンピュータに入力するのは社長が行なう。「お茶、紙袋、ガスが足りないなど異常があったらすぐに止まるので放っておいても安心」

お茶の味を飲み分けるといふ社長の母は84歳の現役。お母さんが入れる美味しいお茶目当てに来る客も多い。



1時間で400袋、あっという間に完成。各産地より入荷したばかりの茶葉を半日で大量に袋詰することができ、鮮度重視の作業が日々行われている。



まるやかさ、旨み、コク…と、緑茶の味を知りつくした高倉園茶舗ならではのブランド茶「高倉ん茶」。ライトな深蒸し茶「豊八」が人気。



monozukuri
14

飲食料品卸売業

有限会社
高倉園茶舗

〒870-1112
大分県大分市下判田 2348-1
TEL 097-597-0107



高倉園茶舗は大分市に判田店と高松店の2店舗を抱える。高松店は奥様が営む。

れた機械、最新型ガス充填包装機が設置。この装置のおかげで、午前中の急な受注も品質を損なうことなく、丁寧に包装された商品を午後には納品できるほど、スピーディーな対応が可能になりました。「全自動なのでセットしておけば安心して任せられる。時間の短縮だけでなく、袋詰めロスもなくなったので、お客様と接客していても、裏で勝手に作業をしてくれるので助かります」と高倉社長。

3代目を引き継いだ高倉社長は商品開発からデザイン、キャラクターの企画までを考えるアイデアマン。九州の産地から仕入れる茶葉にこだわりの「普通の人が日常、普通に飲めるようなお茶づくりを目指しています」と語りま

日常に日本の豊かなお茶が飲める
お茶づくりを目指して

日本人にとってお茶と言えば「緑茶」ですが、昨今ペットボトルのお茶の普及が広まり、本当のお茶の味を知らない世代が増えて中、本物の緑茶の味にこだわってきた高倉園茶舗。創業大正15年以来、専門店として美味しい日本伝統の茶の味を探索し続けてきました。馴染みの顧客から、取引先、さ

大正時代から3代に渡って
こだわりの本物の緑茶の味

国内産茶葉使用に徹した
オリジナルブランドを確立

店内にずらりと並ぶのは3代目の高倉慶紀社長が立ち上げた独自のブランド「高倉ん茶」。果敢なチャレンジ精神と探求心で、100%国内産茶葉に徹し

最新型ガス充填包装機で
急な注文の対応が可能に

店舗の裏の作業スペースには、導入さ

た既存商標登録商品「本格銘茶豊八（とよはち）」をはじめ、オリジナルブランド「銘茶静心（せいしん）」、「日本の緑茶」などを開発してきました。日常で親しまれ、贈答で喜ばれる人気の商品のラインナップが多種多様に揃っています。

monozukuri-14

takakuraen

14 有限会社 高倉園茶舗

オリジナルブランドで緑茶の
魅力を展開する老舗専門店

日本のお茶の味を伝え続けて90余年。緑茶の専門店だからこそ実現できたオリジナルブランド拡充のために袋詰め機械を導入。

365日休みなしの
お茶屋さんを日夜
サポートしている。



作業場のジャストサイズに設計された全自動ガス充填包装機導入により、即日納品の大口注文がいつでも受注可能になった。コンピュータにグラム数などのデータを入力し、茶葉を機械に入れるだけで、窒素ガス充填、包装、シール貼りまで終了した完成品がわずか20秒で出てくる。以前の機械に比べるとボンベの減り、電気代、振動も改善され完成度が違う。

導入のポイント
家族経営の助っ人は
全自動「小型ガス充填包装機」